

折に触れ 四字熟語

NO. 236 『鏡花水月』 きょうか すいげつ

< 意味 > はかない幻のたとえ。目には見えるが、手に取ることのできないもののたとえ。また、感じ取れても説明できない奥深い趣のたとえ。詩歌・小説などの奥深い味わいのたとえ。本来は、鏡に映った美しい花と水に映った美しい月の意。それらは目に見えても見るだけで、実際に手に取ることはできないことからいう。

「水月鏡花（すいげつきょうか）」ともいう。「水月鏡花法」はその物事をあからさまに説明しないで、しかもその物事の姿をありありと読者に思い浮かばせる表現方法。

一 言：最近の本屋の店頭には脳トレのための雑誌がたくさん並んでいます。私もアンチエイジングのためにとチャレンジしているのですが、四字熟語を見つける問題で解答が分からず、この「鏡花水月」を初めて知りました。明治時代の作家泉鏡花の本名は泉鏡太郎とありますが、鏡花というペンネームは、この熟語から取ったのでしょうか。

参照文献：岩波書店「四字熟語辞典」